

Report

地元の出版社社長がガイド！ 神田神保町案内

本といえば、「神田神保町」といわれていることを、皆さんはご存じですか？インターネットのない時代、調べものをするには、神田神保町を訪れるのが学生の定番でした。なぜこの街が本の街と呼ばれるのか、今も愛されているのか、その理由を、この街で出版社を営む江草貞治さんに教えていただきました。



出所不明。書店の看板の文字が右から左であることから、おそらく1950年以前に撮影されたもの。

神田神保町のはじまり

神田神保町へようこそ。今日は東京でも際だった個性を持つ街、「神田神保町」についてご紹介したいと思います。

江戸時代の末、まだ神田神保町という町名が無い頃のこの一帯は、延焼防止のための火除地や武家屋敷があり比較的ゆったりとした空間でした。神田神保町は、そこから出来たたくさんの大学と大学生によって形作られた街です。その先駆けとなったのが幕末に設けられた「蕃書調所(ばんしょしらべしょ)」といいう洋学を翻訳、教授する組織でした。それ以後、東京大学の前身の教育組織である大学予備門(のちの第一高等学校や「東京開成学校」)、日本大学、

中央大学、明治大学ほか多くの前身校が開学し近代学問の発祥の地となったのです。

弊社(有斐閣)の創業者・江草斧太郎は商売を始めるにあたり、開業の場所を大学が集まり始めた神田神保町に定めました。お江戸にぽっかり空いた土地が大学と大学生によりみるみるうちに「神保町」へと変貌を遂げていく様は、創業者にとってさぞかし目を見張るものだったろうと思います。

歴史上の人物も通った!?

鹿島茂著『神田神保町書肆街考』によると当時の学生には奨学金が貸与されていたようで、学費や下宿代を払って手元に残ったお金はささやかな遊興費





写真提供：神田古書店連盟。1960(昭和35)年、第1回神田古本まつりの様子（「千代田区広報」昭和35年11月5日号より）。



ライスカレー まんてんは、創業40年超の今も、学生や社会人に大人気。写真はカツカレー700円(税込)。とにかく、安くてボリュームが多い！

写真提供：明治大学史資料センター。
1960年頃、すずらん通りを行きかう学生
や会社員の姿。

になったとのことです。授業もそこそこに街に繰り出し、牛鍋を同級生とつついで寄席に行ったりしていたようだ、時代が下るにつれて書店や古書店はもちろん、飲食店、映画館、寄席・劇場といった文化施設、床屋や文具屋など大学を中心とした文化圏が次第に出来上がったのです。学生時代の夏目漱石や坪内逍遙といった著名人も、この同じ道を歩いていたのかと思うと街歩きもひと味違ってきますね。

ところで、この街には中華料理店が多いことに気がつきましたか？明治・大正時代、日本はいち早く近代化したアジアの国として清国を中心として多くの留学生が来日していました。故郷の味を楽しめる中華料理店が多く軒を並べ、周恩来、魯迅といった歴史上の人物もすずらん通りを歩いたことでしょう。

もちろん、私にとっても思い出深い街です。東京都立九段高等学校に通っていましたので、九段坂を徒歩で下りて書店や漫画専門店に行きました。今でもある「ライスカレー まんてん」は安くてボリュームがあり、正に青春の味です。老舗の飲食店では、供する方も食べる方も真剣勝負のような面持ちで黙々と対峙し、さっとかき込んで食べ終わると余韻もそこに後の人々に席を譲ります。注文から退店までの短い時間ですが、お客様とお店の間に不思議なリズムがあります。

各ジャンル特色ある古書店

神保町の一番の顔である「古書店街」は、ネットの





神保町の交差点から靖国通りを中心に、東西におよそ130の古書店が並ぶ。古書店の隣はまた古書店!



靖国通りの駿河台下から神田小川町交差点付近には、スノーボードや登山、バスケットボールなど多種多様なスポーツ用品店が集中。



古書のほか、こけしなどを扱う店も。



店内には、床から天井までギッシリ積まれた古書の数々。天気のいい日は店の外まで本が並ぶ。



ギターなどの楽器店も数多く集まる。

■古書店マップ
<https://jimbou.info/map/>

オークションや売買に慣れた皆さんにとってはまどろっこしい場所かもしれません。しかし多くの店は映画や芝居、コミックやロックといった若者文化、書道や古典籍(幕末までに作られた日本人や中国人による書物や著作)などそれぞれ得意領域を持っています。

ネット検索は、調べる対象に関することがある程度知っていないと有効な結果を得ることができません。自分の知らない新しいことを調べるときには、その道に通じた専門家に導いてもらい定番の書籍を読むことが実は最短距離なのです。古書店は膨大な数の刊行物の価値を再発見し、それぞれの専門領域に位置づける営みを何年も繰り返している頼れる存在です。しかし新しいことを知ろうとする人がいなくなってしまえば、古書店街もその役割を果たすことができ

なくなります。一冊手に取ってもらえば、とてもない奥行きを感じることが出来る古書店に、ぜひ足を踏み入れてみて下さい。

行列のできる老舗喫茶店も

今に至るまで、神保町は新しい魅力を加え続けています。スキー・スノボ関連のスポーツショップ、楽器店、様々なカレーやラーメン店。老舗の喫茶店はパンケーキやクリームソーダ、大盛りナポリタンが話題となって行列店になるなど重層的な楽しみが詰まった街になりました。しかしある時期から、街の主役が元・学生(社会人)に代わってしまったように思います。学校を卒業してもこの街に愛着を持ってくれる



Report

“鉄道ファンの聖地”、神保町の有名書店・書泉グランデ。



レトロ喫茶店のさ
ぼうる2の名物は、
クリームソーダと
大盛りナポリタン。



神田伯刺西爾の名物
「レアチーズケーキ」。
ドリンクとセットで900～
950円(税込)。

ことはありがたいことですが、これまで見てきたように、神保町は学生が新しい魅力を発見し加えて行つたことで活気を生み出す街だと思います。おじさん達に負ることなく、学生の皆さんは我が物顔で街を闊歩して下さい。

先日、小学生の男の子二人を連れたお父さんが地図とスマホをじっと眺めていたので声をかけたら、「鉄道関連が充実した本屋ってありますか?」とのことでした。そこに行けば何かあるはず、という神保町の奥行きを象徴するようなお尋ねでしたので、まずは「書泉グランデ」をご紹介しました。その後は「神田伯刺西爾(ブラジル)」のレアチーズケーキでも食べて貰えるといいながら見送りました。

神保町にいる人にとっても、神保町にやってくる

人にとっても、いつまでも「何かあるかな?」の街で
ありたいと思います。

参考図書

- 『神田神保町書肆街考』鹿島茂 著(筑摩書房／2017年)
- 『帝都東京を中国革命で歩く』譚璐美 著(白水社／2016年)



寄稿:江草貞治(えぐさ・さだはる)

有斐閣代表取締役社長。1877年に創立した有斐閣は、主に法学・経済学・人文科学一般に関する書籍を発行し、『六法全書』『ジュリスト』といった定期刊行物で広く知られている。江草さんは1969年生まれ。93年新潮社入社、99年有斐閣入社、2007年より現職。空手道歴約40年!

